

22年度研究報告書「花のまちづくり”福岡”」〈概要版〉

〈研究の背景と視点〉

この研究報告書は、九州新幹線全線開通に併せて実施された記念イベント「福博花しるべ（チューリップのフラワーロード）」を契機に、福岡市が本格的な花のまちづくりを目指すことを期待して、当研究所内にチームを立ち上げ、花のまちづくりの推進の方策について行なった研究である。



（財）福岡アジア都市研究所の平成21年度市民研究員による共同提言「自然と共生する美しい都市が楽しめる遊歩道を目指して」は、「福博花しるべ」に繋がる一つの切っ掛けとなったが、単発に終わらないよう、福岡市が花のまちづくりを推進していくにはどうすれば良いか。この研究テーマに対し、次の3つの視点に立ち研究を進めた。

- 1 花を如何に美しく見せるか。如何に演出するか。
【花の美しい演出形態の都市比較（海外、日本、福岡）】
- 2 二つ目は、花を福岡市のどの場所、どのポイントに効果的に導入するか。
【花の導入場所の提案】
- 3 三つ目は、どうやって持続的な維持管理をしていくか。
【花のまちづくりのための運営スキーム】

〈花の美しい演出形態の都市比較（海外、日本、福岡）〉

花の演出の形態を11分類し、その形態別に、海外、日本の56都市と福岡市における花の演出の現状を、当研究所が撮影した約4000枚の中から132枚を選んだ写真によって比較し考察する方法を採った。考察の結果つぎのとおりである。

- ① 通りの花の景観は、建物側（私的側）を主とし、それぞれが建物の用途・デザインに合せ個性的に演出していくこと。殊に建物自体に花を飾ることが効果的。
- ② 通りの花の景観は、道路側（公的側）を従とし、デザインに配慮した統一感のある演出で美しくなる。歩道の幅員に合わせて花の演出を変える。
- ③ 交差点等のスポット花壇に力点を置き歩道全体のメリハリをつける。交差点は4つのコーナーをセットで演出すると効果的。
- ④ 都心の中に花時計など観光スポットとなるような豪華な花壇を設置。都心の公園や広場が相応しい。
- ⑤ 都心の河畔は福岡市の財産、河畔沿いを活かした個性的な景観の創出に花を活用。建物を水辺に接しさせるとより効果的。
- ⑥ 花の演出は全体のデザインの中で発揮される。建物ファサード、歩道の仕上げ、自転車、変圧器など背景を含めた全体的なデザインをする。

＜報告書より抜粋：比較の例＞



《花の導入場所の提案》

「導入場所」については、福岡市と言っても余りにも広大であるため、人が沢山集まるところ、外来者が訪れるところ、具体的には都心部のメインストリート、空港、駅、港といった都市の玄関等に重点を置くべきと考えた。

これらの場所は、都市全体の印象として捉えられる可能性が高く、重点的に花の演出をすれば、福岡市のイメージアップに効果が高いと考えられる。

ここでは、その中でも、最も効果的で先行的に導入すべき場所7つを提案した。(図参照)

- ① 博多駅～天神を結ぶ本格的なフラワーロードを2つのルートにより設置する。
- ② メインストリートである明治通り、渡辺通りの一定区間について、交差点等のスポットを中心に充実した花壇を重点的に設置する。
- ③ 外来者等の観光スポットとなるような花時計を天神中央公園に設置。アクロスの屋上緑化とセットで見せる。
- ④ 陸の玄関である博多駅の博多口は、駅正面の大博通り、駅前通り、住吉通りの交差点付近に充実したスポット花壇を設置。また、筑紫口は駅広や駅周辺の歩道にスポット花壇を設置。
- ⑤ 空の玄関である空港は正面の立体駐車場の屋上フェンスをハンギングで演出。
- ⑥ 大博通り、住吉通りの二つの幹線道路を、市民とともに花作りをしていくモデルとして位置づける。
- ⑦ 博多川沿いの建物が立ち並ぶ川端側の河畔を、フェンスのハンギングや建物バルコニーに花を飾るなど連続的な花の演出によって個性的な水辺の景観を演出。

＜シミュレーションの一例＞ 博多川河畔に面したビルをハンギングで飾る



<導入場所の提案(図)>



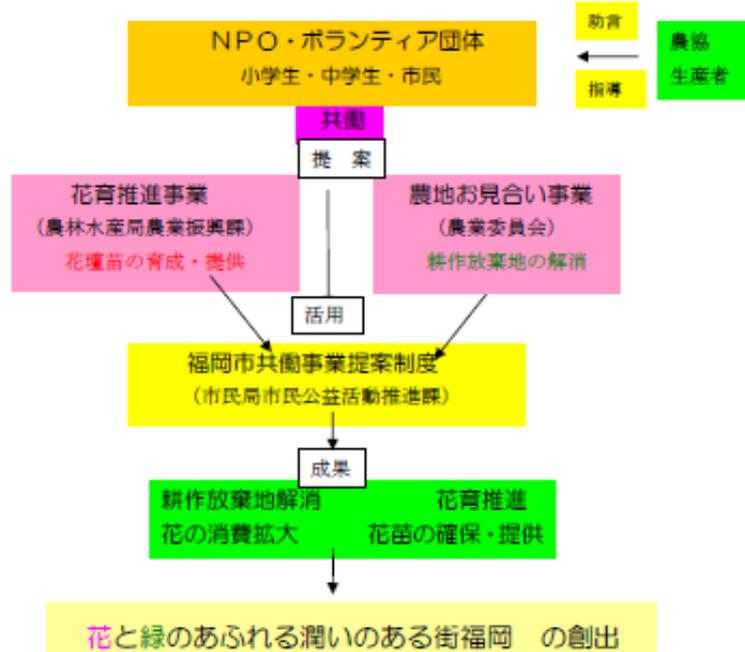
《花のまちづくりのための運営スキーム》

持続的に花を育てていくのは労力と費用の面がネックで、特に、今回の対象である都心部周辺は業務ビルや商業施設が多く、住宅地のように居住者が庭で育てるといった訳にはいかないという特性に焦点を充てた。都心部の花づくりは、企業や市民の協力を必要とし、企業や市民も行政の援助を必要とし、互いに力を合わせなければ活動は困難である。

そのため、ここでは、人の労力負担の軽減、費用の軽減の観点から、5つの具体策を提案した。

- ① 花苗を安定的に調達するために、地元の花苗生産農家の生産の安定化を図るとともに、花苗育成用地として学校の校庭や耕種放棄地を活用。
- ② 最も人的負担となっている水遣りの労力を軽減するため、再生水や雨水を活用して水源の確保を図る。
- ③ 花を育てるための技術的な指導者やボランティア等の人材育成を図るとともに、大学や若手デザイナー等の専門技術者に活動の場を提供。
- ④ 花に対する興味の醸成と啓発を促すため、花育の推進や多くの市民を対象にした花のイベントを推進。
- ⑤ 安定的な活動資金を調達するため、既存制度の活用は基より、広く福岡都市圏の市民からや、福岡で経済活動を行う企業から調達する仕組みを創る。
- ⑥ これらを実現するため、最も費用のかかる花苗の育成配布の仕組みや、コーディネートをNPOとした花のまちづくりの体制を創る。

<福岡市共働事業提案制度を活用した運営スキーム例>



《福岡市への提案》

これら3つの視点からの具体的な提案の実現を図るためには、次の二つのスキームが不可欠であるとして提案した。

1. 花のビジョンを策定する。

「福岡市 新・緑の基本計画」の「緑」は「花」を包含しているが、花は花としての都市計画的なビジョンを策定し、しっかりと位置づけていく。

2. 「福博花のまちづくり推進協議会」の設置

花のまちづくりは、行政、民間の多くの人、多くの作業が互いに関連していることから、全体が有機的に廻っていくような仕組みが必要である。そこで、花のビジョンに関連する行政、市民団体、企業、学校、「生産者、造園デザイナー、観光関係者等で構成する推進協議会を設置し、この機関にエンジンの役割を持たせる。資金の調達もこの機関が行う。福岡市の都心部を対象としていることからこの名称にした。

